

基礎CG14枚 本編122枚



# 感染体と激ヤバSEX

-異形女を精子で治療-





そうやって足を掴み上げ開脚させた。  
性器のまわりは意外と綺麗だ。  
精液と喉奥の粘液でちようどペニスはヌル  
ヌルに濡れているため、そのまま膣に差し  
込んだ。

ぴく





「おっと」

予想以上にじたばたしている。膣肉も相当こわばっているし、もしかしたら処女だったのかもしれない。

「ンギイー！」

ギョギョ

ずぶり





「ギイー！ギイー！」

ぎゅ

みち

だが感染体は感じていなくても膣から愛液を垂らしているので挿入自体は普通に可能だ。  
膣肉をこじあけていき根本までいれこんだ。



泣きわめく感染体を見殺して、腰を前後する。

「少しの間おとなしくしてくれ。」ズチュ

ズチュ

ズチュ

ズ

ズ

暴れる感染体を押さえつけ、ズンズン突いていく。

脚を強く握るとおとなしくなることがわかったため、ずいぶんやりやすくなった。



だんだん膣肉がほぐれ、柔らかく心地いい締め付けになってきた。

「あっ 気持ちいいー!」

みち

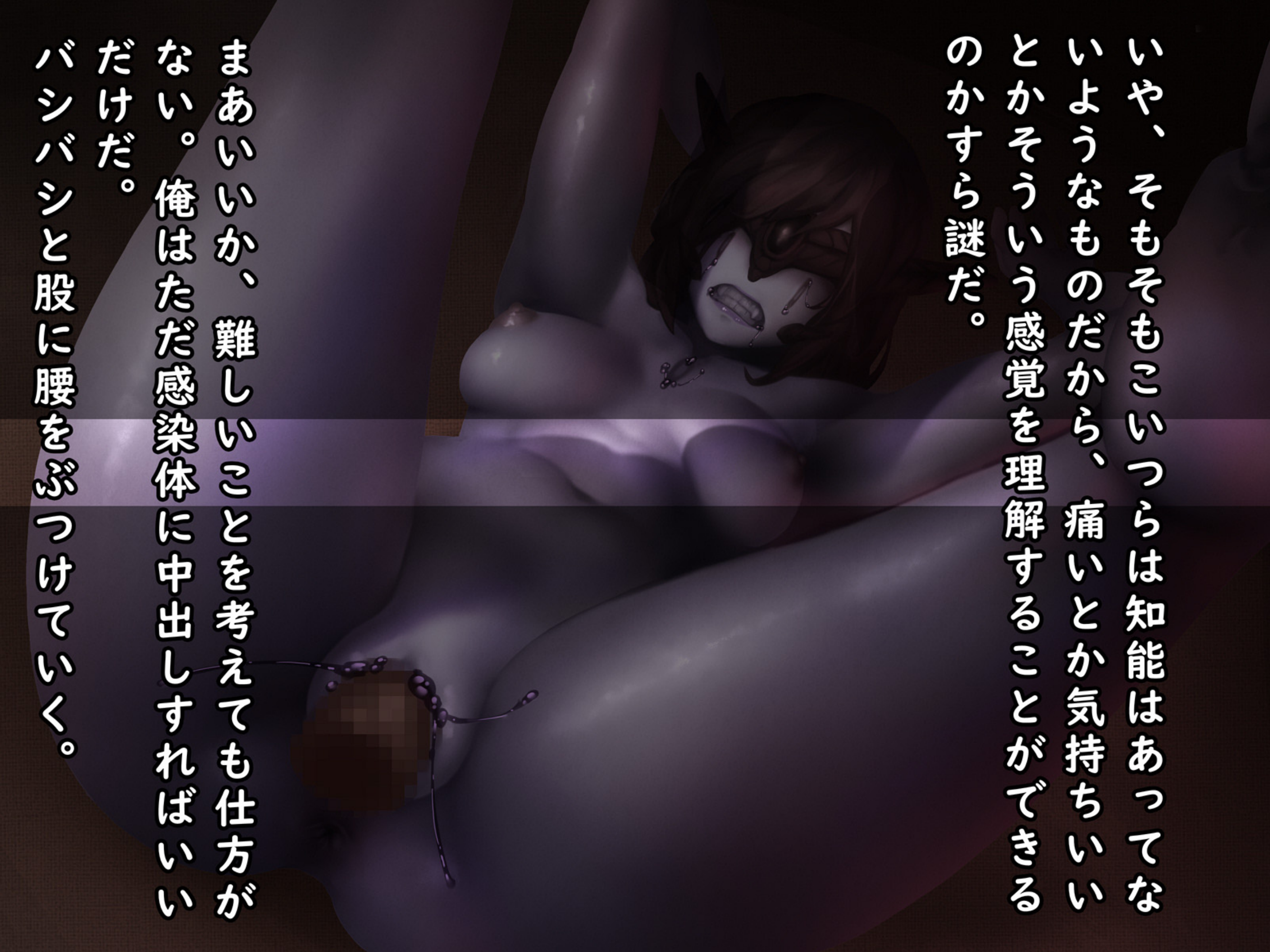
又子

びく

「ギョっ!」

感染体は強く歯を食いしばっている。やはり痛いのだろうか。





いや、そもそもこいつらは知能はあってないようなものだから、痛いとか気持ちいいとかそういう感覚を理解することができるところかすら謎だ。

まあいいか、難しいことを考えても仕方がない。俺はただ感染体に中出しすればいいだけだ。  
バシバシと股に腰をぶつけていく。



ゾクゾクと射精したくなってきた。

「よしっ！出すぞ！感染体処女マンコに子種をたっぷり注いでやる！」

ばん

ばん

ぱちゅ

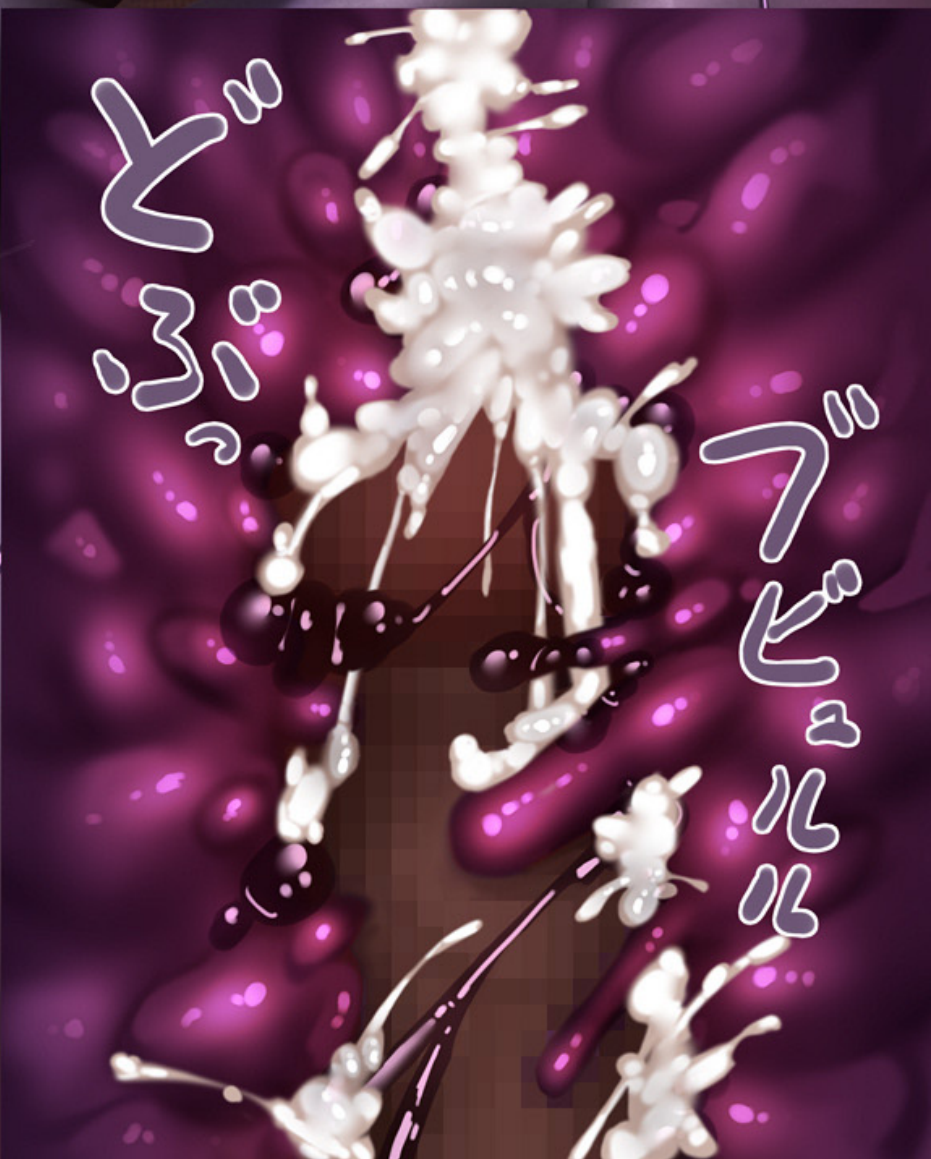
ズブ

膣からどろどろとした液が溢れ出してきた。



「ウギーー！」

びくん



ど  
ぶっ

ぐ  
びゅるる

ホ  
ホ

射精と呼応して感染体の体はハネ上がり、  
ピクピクと痙攣した。



出せるだけの精子を子宮に注いでから引き抜いた。  
感染体はびくびくと震えながら身を返し、  
ゆっくりとその場を離れていこうとする。

